

— **聖枝祭** 聖体礼儀 —

いつもと違うところ

2015 Nagoya

---始まりから大連祷までいつもと同じ---

第1アンティフォン 第114 聖詠

ソロ 附唱、救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

附唱 救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

第1アンティフォン 附唱

救世主や 生神女の祈禱によつて、我等を救いたまえ

(ソロ) 第1句 我喜ぶ、主の我が声、我が祈りを聴きしに因る。

附唱 救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

(ソロ) 第2句 彼はその耳を我に傾けたり、故に我在世の日に彼を呼ばん。

附唱 救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

(ソロ) 第3句 死の病は我をかこみ、地獄の苦しみは我に臨み、

附唱 救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

(ソロ) 第4句 我辛苦艱難に遭へり、其時我主の名を呼べり。

附唱 救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

(ソロ) 光栄は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

附唱 救世主よ、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

— 小連祷 —

第2アンティフォン

(ソロ) 若きロバに乗り給ひし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

附唱、若きロバに乗り給ひし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。

第2アンティフォン 附唱

わかき ロバに乗りし かみの子よ

我等爾に ア ril イヤを歌うものを 救い たまえ

The musical score consists of two systems. The first system has a vocal line on a treble clef staff and a piano accompaniment on a bass clef staff. The lyrics 'わかき ロバに乗りし かみの子よ' are written below the vocal line. The second system also has a vocal line and piano accompaniment. The lyrics '我等爾に ア ril イヤを歌うものを 救い たまえ' are written below the vocal line. The piano accompaniment consists of simple chords and single notes.

第二倡和詞、百十五聖詠、我信ず、故に言へり、我はなはだ傷めり。

附唱、若きロバに乗り給ひし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌う者を救い給へ。

第二句、我何を以て／主の我に施しし悉くの恩に報いん。

附唱、若きロバに乗り給ひし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌う者を救い給へ。

第三句、我救の爵を受けて、主の名をよばん。

附唱、若きロバに乗り給ひし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌う者を救い給へ。

第四句、我が誓を主に、其衆民の前に償はん。

附唱、若きロバに乗り給ひし神の子よ、我等爾に「ア ril イヤ」を歌う者を救い給へ。

(ソロ) 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々にアミン

「神の独生の子並びに言よ」(楽譜は次ページ)

[神の独生の子]

トロパリ 6 調のメロディによる

神の独生の子 並びに ことばや、 死せざる者にして 我等を

救わんがため 甘んじて 聖なる生神女 永貞童女マリヤより 身をと

か 神の性を易えずして 人となり 十字架に 釘 打たれ

死をもつて 死を踏み破りし ハリストス かみや、 せいさんしゃ 聖三者の

いととして 父と聖神とともに 讃美せられる 主や、

我等を すぐいたまへ。

[小連祷]

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女幸・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人と
 を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリスト
 ス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 蓋國と権能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」



第2 アンティフォン

ソロ 主を讚榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世世にあればなり。(まっすぐに唱えてもよい)



聖歌 「ハリストス神よ、爾は己の苦の前に…」 (楽譜下)



ソロ(第二句) イズライリの家／今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世世にあればなり。

聖歌 「ハリストス神よ、爾は己の苦の前に…」

ソロ(第三句) アアロンの家／今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世世にあればなり。

聖歌 「ハリストス神よ、爾は己の苦の前に…」

ソロ(第四句) 主を畏るる者／今言ふべし、彼は仁慈なり、其憐は世世にあればなり。

聖歌 「ハリストス神よ、爾は己の苦の前に…」

司祭 「謹みて、立て」

小聖入

聖入の句、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、我等主の家より爾等を祝福す。主は神なり、我等を照せり。

来たれ ハリストスの まへに 伏しおがま—ん

かみの子 若き ロバに 乗り 給える 主 や、

なんじ 爾に アリルイヤを 奉るものを すくいたま—え。

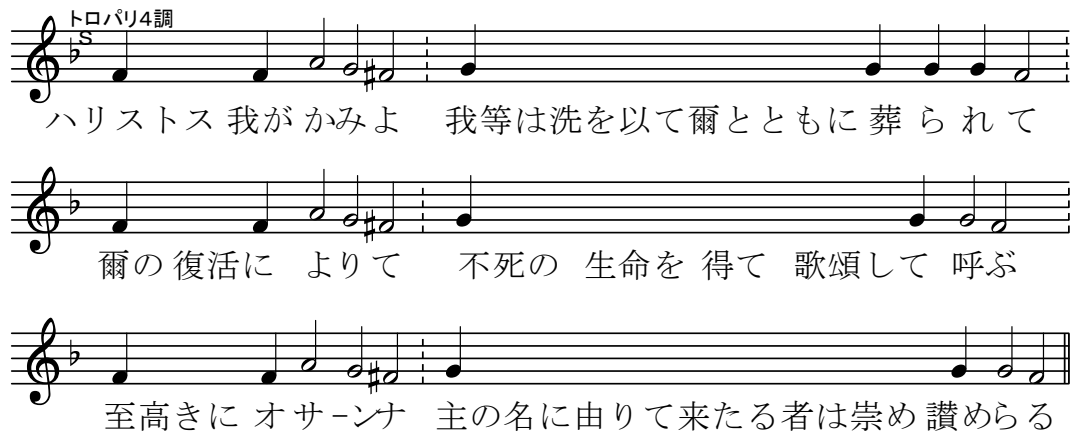
トロパリ 1



ハリストス かみよ、 爾は己の ^{くる}苦しみのさきに
一般の復活を 信ぜしめて ラザリを死より起こしたまえり
故に我等も 童子のごとく 勝利のしるしを取りて
^{なんじ} 爾 死の 勝利者に 呼ぶ いとたかきに オサンナ
主の名に由りて来る者は 崇め讃め らる

♪ 光栄は父と子と聖神に帰す

トロパリ 2



トロパリ4調
ハリストス 我がかみよ 我等は洗を以て爾とともに葬られて
爾の復活によりて 不死の生命を得て 歌頌して 呼ぶ
至高きに オサンナ 主の名に由りて来たる者は崇め讃めらる

♪ 今も何時も世々にアミン

コンダク、第六調（天の王と同じメロディで）

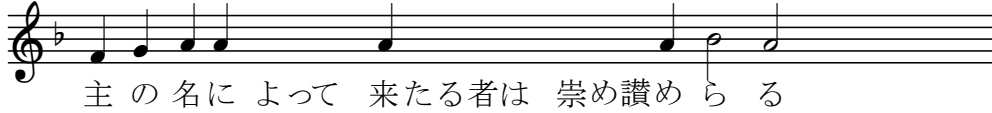
天には宝座に、地には ^{わかきうさぎうま} 小 驢 に乗せらるるハリストス神よ、爾は諸天使の讚美、
諸子の歌頌を受け給へり。彼等爾に呼べり、アダムを喚び起さん為に来たる主よ、
爾は崇め讃めらる。

「聖なる神」

使徒のポロキメン、第四調、

主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、主は神なり、我等を照せり。

句、主を讃榮せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐は世世にあればなり。



使徒はフィリッピ書二百四十七端。「ア ril イヤ」、

第一調、新なる歌を主に歌へ、蓋彼は奇跡を行へり。句、凡そ地の極は我が神の救を見たり。

福音経はイオアン四十一端。聖金口の聖體禮儀を行ふ。

常に福の代わりに



領聖詞、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、主は神なり、我等を照せり、
「アレルイヤ」、三次。(聖詠 117)

聖枝祭 領聖詞

Mark Baileyのメロディから
arr. Maria Matsushima

主の名に依って 来たるものは

あがめほめらる 主はかみなり

われらを照らせり

アレルイヤ アレルイヤ

アレルイヤ アレルイヤ